

令和8年度 港区政策評価シート

1 政策名・所管部門				
政策No	6	政策名	持続可能な循環型の都心づくりを進める	
所管部	環境リサイクル支援部		関係部	
2 政策のめざす方向性				
区民は、ごみを出さない生活スタイルのもと、正しい分別ルールを徹底し、事業者は自らの責任に基づき、ごみの減量や資源化に取り組みます。区は地域や排出者の特性に応じた質の高い収集サービスを展開するとともに、台風等の荒天時や感染症の拡大時などいかなる状況においても、区民生活を支える廃棄物処理を実践します。新型コロナウイルスの感染拡大により、事業活動や生活スタイルが変化し、ごみ排出量にもその影響が見られました。今後の動向に注視しつつ、世界の潮流となっている「循環経済（サーキュラーエコノミー）」への移行に向け、清潔で快適な生活環境を保全し、環境にやさしい持続可能な都市を実現します。				
SDGsとの関係				
3 成果指標【政策について満足している区民の割合】				
指標の推移		計画目標値	達成度※	※評価区分 A：達成（達成度が100%以上） B：相当程度達成（達成度が70%以上100%未満） C：未達成（達成度が70%未満）
現状値	実績			
令和2年度	令和7年度	令和8年度		
34.2%	34.2%	41.0%	C	
これまでの取組と成果	区民・事業者・区の協働により、3Rの推進と資源循環の促進に取り組みました。区民向けには、おもちゃ回収等の拠点回収の拡充、マイボトル対応型給水機の設置、フードドライブの回収拠点の拡大等により、リユース・リデュースの行動につながる機会を増やしました。事業者向けには、オンラインによるごみ減量セミナーや講習会の実施、立入検査・指導、再利用計画書の提出・活用を通じてごみ発生抑制と分別の徹底を促しました。収集・処理面では、集積所指導や戸別訪問収集、清掃車による啓発（みえる号）等を継続するとともに、危険物混入防止の注意喚起やリチウムイオン電池使用製品の回収等、安全・安心・効率的な処理の取組を進めました。			
課題と今後の方向性 ※未達成の場合は原因分析を含む	未達成の理由として、可燃ごみ中に資源化可能な紙類・プラスチック等が混在するなど、分別の徹底と排出ルールの周知が不足していたことが要因の1つと考えられます。成果指標達成に向け、周知を一層強化するとともに、拠点回収やフードドライブ、リユース（子ども服等）など、区民が参画しやすい取組を拡充してまいります。事業系ごみについては、再利用計画書提出のオンライン化等により手続きを改善し、計画書の活用を通じた普及啓発を進めます。あわせて、厳しい気象条件や大規模災害時にも持続可能な資源・ごみの収集体制を確保し、危険物（充電式電池等）の適正排出を促進します。			
4 施策の取組状況【施策評価結果】（詳細は別紙「施策評価シート」）				
No	施策名	成果指標	施策評価	
①	区民の参画と協働による3Rの推進	資源回収量	C	
②	事業系廃棄物の発生抑制と資源循環の促進	持込ごみ量(事業者などが清掃工場等の処理施設に直接持ち込むごみ量)	A	
③	安全・安心・効率的な廃棄物処理の実践	区収集ごみ量（管路ごみ含む。）	C	
		区民1人あたりの1日のごみ排出量		

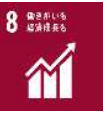
5 予算額・決算額・執行率（単位：千円）			
年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
予算額	4,769,837	5,404,400	6,680,908
流用・補正	0	△10,913	-
決算額	4,706,512	5,311,777	-
執行率	99.15%	98.49%	-

6 政策を取り巻く社会経済情勢等	
計画期間中の社会経済状況等の変化 ・社会経済状況、人口動向、財政状況、国や東京都等の動向など	コロナ禍以降の経済活動の回復や人口増等により、ごみ総量は増加傾向にあります。また、リチウムイオン電池等の充電式電池を使用した製品の普及に伴う事故リスクの高まりが見られます。
区民ニーズ等 ・区民意識調査 ・区民から寄せられた意見 など	令和7年度に実施した一般廃棄物処理基本計画改定に向けたアンケート調査では、ごみの減量やリサイクルを徹底することの周知・啓発を区に求める声が多くありました。

7 所管課による評価【一次評価】	
政策の達成状況	・ 政策の目標である循環型の都心づくりに向けては、資源回収の促進により相対的に高い資源化率となっています。 ・ 政策全体としては、資源量の上昇やごみ量の削減で目標には達していません。
達成状況の要因 ・ 施策の有効性が高かった点 ・ 施策の有効性が低かった点 ・ 外部要因の影響を受けた点 など	・ 施策①について、可燃ごみ中に資源化可能なプラスチック等が一定量含まれていることが、目標達成の難しさにつながっています。 ・ 施策②の事業系ごみについては、立入検査の強化等により、排出抑制につながっています。 ・ 施策③について、経済活動の回復や人口増等により、ごみ総量は増加傾向にあり、資源とごみの分別の徹底を図っていく必要があります。
課題と今後の方向性	・ 拠点回収の運用（保管・収集体制）を整備しつつ、新たな回収品目の拡大も含めて資源回収を充実させるとともに、分別の徹底に向けた啓発を強化します。 ・ 事業系ごみは再利用計画書提出のオンライン化等により利便性を高め、計画書の活用を通じた普及啓発を推進します。 ・ 港区一般廃棄物処理基本計画の改定を踏まえ、3Rの取組と適正排出の徹底を両輪として、ごみ減量と資源循環を加速させるとともに、厳しい気象条件や大規模災害時にも持続可能な収集体制を構築します。

8 港区行政評価委員会による評価【二次評価】	
評価	C：政策目的を未達成
政策の達成度	・ 区民満足度は当初実績と同水準で推移していることに留意が必要です。 ・ 資源化率を成果指標として設定していないことは、政策の実現に向けた課題です。 →以上を踏まえ、評価は「C」とします。
MINATOビジョン策定に向けた今後の政策の方向性 ・ 重点的に取り組むべき施策 など	・ 成果指標「資源回収量」については、ごみ量の減少との相関関係が分かるような設定をするべきです。 ・ 人口増加に伴うごみ量の増加という実態に鑑み、資源化率を成果指標として設定する必要があります。 ・ ごみ回収の有料化が検討されている中で、ごみの分別に向けた区民へのインセンティブが重要であることから、資源回収に関する周知を強化し、区民の行動変容を促していく必要があります。

施策評価シート

政策No	6	政策名	持続可能な循環型の都心づくりを進める
施策No	①	施策名	区民の参画と協働による3Rの推進
目標・期待する成果	これまでの3Rの取組に加え、新型コロナウイルス感染症により変化した区民の生活スタイルを考慮しながら、「ごみを出さない新しい生活スタイル」と「ルールに基づいた適切な分別」の定着をめざします。また、廃プラスチックの排出抑制や食品ロスの削減を一層推進し、環境に配慮したリサイクル手法についても検討します。		
SDGsのゴールとの関係	         		
施策担当課	みなとりサイクル清掃事務所		関係課

1 成果指標の達成度

成果指標①		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和８年度は見込み）			
		令和２年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	
資源回収量		23,112t	21,414t	20,629t	20,233t	23,700t	30,100t
	達成度	当該年度の取組と成果					
令和６年度	c	令和６年度から、おもちゃの拠点回収場所を２か所から３か所へ拡大し、回収量の増加を図りました。また、ペットボトルの使用を抑制するため、マイボトル対応型の給水機を本庁舎及び各支所に設置し、プラスチックごみの削減に努めました。			今後、資源回収量を増やしていくためには、保管場所や収集体制の確保等が課題となります。これら課題への対応を検討するとともに、新たな拠点品目の回収も積極的に行い、引き続き分別を促す啓発に取り組んでいきます。		
令和７年度	c	民間企業と連携したフードドライブ促進のため、未利用食品回収拠点の試行設置を行いました。令和８年３月２４日に試行事業者と協定を締結し、ライフ（１店舗）、ファミリーマート（１０店舗）を新たに常設の回収拠点としました。			引き続き、資源回収量増のため、保管場所や収集体制の確保等の課題への対応を検討するとともに、新たな拠点品目の回収も積極的に行い、引き続き分別を促す啓発に取り組んでいきます。		
令和８年度	c	需要はあるが回収量の少ない小学校高学年用子供服のリユースをより充実させるため、回収場所や回収方法を検討します。また、良質なプラスチックごみのリサイクル推進に向け、企業と連携した新たな回収の取組方法を検討します。					

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）

c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

成果指標②		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和8年度は見込み）			
		令和2年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	達成度	当該年度を取組と成果			課題と今後の方向性 （未達成の場合は原因分析を含む）		
令和6年度							
令和7年度							
令和8年度							

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）

c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

2 施策評価

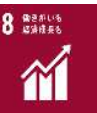
評価	C：計画目標を達成できない
施策の達成状況	資源回収量の推移実績の傾向から、計画目標値を達成する見込みは低い状況です。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	資源回収量はごみ量に比例して増減する傾向があります。また、可燃ごみ、不燃ごみの中にも資源となる紙類やプラスチック等が含まれています。リチウムイオン電池等の充電式電池を使用した家電製品の普及が急速化したことなどの社会的要因を踏まえ、新たに実施した不燃ごみでのリチウムイオン電池の回収では、約6.1tの資源を不燃ごみから回収しました。
MINATOビジョン策定に向けた課題と今後の方向性	令和7年度に実施した港区ごみ排出実態調査では、可燃ごみにはプラスチック類が約18%含まれており、今後もプラスチックの分別についての啓発を継続します。また、可燃ごみ中の厨芥類（26.5%）のうち、手つかずの食品の割合は10.2%でした。食品ロス削減に向け、区民の理解と関心を深めるための啓発を行うとともに、フードドライブの参加促進を図るため広く周知します。 これらの排出状況をもとに、一人ひとりがごみ排出量削減に取り組み、資源循環型社会の形成をめざします。

A：計画目標を達成できる（成果指標（平均）の達成度100%以上）

B：計画目標を相当程度達成できる（成果指標（平均）の達成度70%以上100%未満）

C：計画目標を達成できない（成果指標（平均）の達成度70%未満）

施策評価シート

政策No	6	政策名	持続可能な循環型の都心づくりを進める
施策No	②	施策名	事業系廃棄物の発生抑制と資源循環の促進
目標・期待する成果	事業者が「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に定める基本原則である排出者責任に基づき、紙類や厨芥（生ごみ類）を中心とするごみの発生抑制と適正処理の徹底をめざします。環境配慮設計や排出抑制など、令和4（2022）年4月に施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の趣旨も踏まえ、プラスチック製品の製造事業者や排出事業者が求められている取組を積極的に推進していく状況を創出します。		
SDGsの ゴールとの 関係	          		
施策担当課	みなとりサイクル清掃事務所	関係課	

1 成果指標の達成度

成果指標①		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和８年度は見込み）			
		令和２年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	
持込ごみ量（事業者などが清掃工場等の処理施設に直接持ち込むごみ量）		63,136t	78,690t	81,648t	82,586t	72,987t	90,100t
	達成度	当該年度の取組と成果			課題と今後の方向性 （未達成の場合は原因分析を含む）		
令和６年度	a	区内の事業用大規模建築物に対して、「ごみ減量セミナー」及び施設見学会、また立入検査を347件実施するなどごみ量削減やリサイクルに向けた普及啓発を行ったほか、再利用計画書の提出のオンライン化を検討しました。			コロナ禍以降持込ごみ量は増加傾向にあることから、ごみ減量アドバイザーを同行した立入検査を令和７年度は365件目標で実施するとともに、引き続き再利用計画書のオンライン化を検討するなど、一層の啓発強化・指導を実施していきます。		
令和７年度	a	区内の事業用大規模建築物に対して、オンラインによる廃棄物管理責任者講習会やごみ減量セミナーを行うとともに、立入検査を308件実施するなど、ごみ削減やリサイクルにかかる普及啓発を行いました。			事業者が提出する再利用計画書の回答率がおよそ90%であったため、再利用計画書のオンライン提出を検討し、事業者の利便性向上と計画書の活用を通じて、ごみ減量に関する意識の向上を促進していきます。		
令和８年度	a	区内の事業用大規模建築物に対して、立入検査は365件を目標として実施します。再利用計画書の提出のオンライン化を進め、計画書の活用を通じて、ごみ減量に関する普及啓発を行います。					

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）
c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

成果指標②		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和8年度は見込み）			
		令和2年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	達成度	当該年度を取組と成果			課題と今後の方向性 （未達成の場合は原因分析を含む）		
令和6年度							
令和7年度							
令和8年度							

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）

c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

2 施策評価

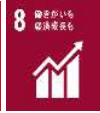
評価	A：計画目標を達成できる
施策の達成状況	紙類や厨芥（生ごみ類）を中心とするごみの発生抑制と適正処理の徹底をめざし、事業用大規模建築物を中心にごみ減量の普及啓発活動を行い、計画目標を達成しています。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	事業用大規模建築物への再利用計画書の提出を義務付け、ごみ減量セミナーや廃棄物管理責任者講習会をオンライン化して受講しやすい環境を作り、ごみ減量に関する事業者の意識向上を図りました。
MINATOビジョン策定に向けた課題と今後の方向性	事業者から排出されるごみ量は今後増加する可能性があり、ごみ減量アドバイザーを同行した立入検査を継続的に行うとともに、再利用計画書の提出のオンライン化を進め、計画書の活用を通じてごみ減量に関する普及啓発を行います。

A：計画目標を達成できる（成果指標（平均）の達成度100%以上）

B：計画目標を相当程度達成できる（成果指標（平均）の達成度70%以上100%未満）

C：計画目標を達成できない（成果指標（平均）の達成度70%未満）

施策評価シート

政策No	6	政策名	持続可能な循環型の都心づくりを進める
施策No	③	施策名	安全・安心・効率的な廃棄物処理の実践
目標・期待する成果	全ての区民が安全・安心かつ快適な日常生活を営んでいくためには安定した収集体制を維持していくことが重要です。感染症対策や頻発する自然災害に備えた安定的な収集体制を構築します。また、リチウムイオン電池など収集作業や焼却施設に重大な影響を及ぼす危険物等の不適正排出の防止について啓発していきます。		
SDGsの ゴールとの 関係	        		
施策担当課	みなとリサイクル清掃事務所		関係課

1 成果指標の達成度

成果指標①		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和8年度は見込み）			
		令和2年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
区収集ごみ量（管路ごみ含む。）		53,939t	51,382t	50,897t	50,925t	50,925t	44,300t
	達成度	当該年度の実績と成果			課題と今後の方向性 （未達成の場合は原因分析を含む）		
令和6年度	c	適正な廃棄物の処理を実施するため、戸別訪問収集や集積所の指導、みえる号を使った環境学習やごみの分別についての普及啓発、リチウムイオン電池などの危険物混入の注意喚起等の取り組みを行いました。			区収集ごみ量は年々減少傾向にありますが、緩やかな減少となっています。より効果的な方法を検討しながら、引き続き安定した収集体制の維持、資源循環のPR、不適正排出の防止に向けて取り組んでいきます。		
令和7年度	c	資源・ごみの分別の徹底など、適正なごみ排出に努めるとともに、リチウムイオン電池等の充電式電池の回収を開始するなど、時勢に合わせた収集体制を構築しました。また、排出物の成分調査を実施し、区民のごみ排出の実態把握を行いました。			令和7年度に実施した区民のごみ排出の成分調査では、可燃ごみに資源化できる紙類、プラスチックなどが多く混入しており、引き続き資源とごみの適正な分別について啓発が必要です。		
令和8年度	c	「港区一般廃棄物処理基本計画」を改定し、更なる循環型社会の構築に向けて、3Rの実践とともに、ごみ減量に向けた適正な排出を呼びかけながら、厳しい気象条件や大規模災害時にも持続可能な収集体制を構築します。					

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）
c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

成果指標②		指標の推移					計画目標値
		当初	中間	実績値（令和８年度は見込み）			
		令和２年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	
区民1人あたりの1日の ごみ排出量		570.5g	528.6g	519.3g	516.9g	512.0g	429.9g
	達成度	当該年度の取組と成果			課題と今後の方向性 （未達成の場合は原因分析を含む）		
令和６年度	c	適正な廃棄物の処理を実施するため、戸別訪問収集や集積所の指導、みえる号を使った環境学習やごみの分別についての普及啓発、リチウムイオン電池などの危険物混入の注意喚起等の取り組みを行いました。			区収集ごみ量は年々減少傾向にありますが、緩やかな減少となっています。より効果的な方法を検討しながら、引き続き安定した収集体制の維持、資源循環のPR、不適正排出の防止に向けて取り組んでいきます。		
令和７年度	c	資源・ごみの分別の徹底など、適正なごみ排出に努めるとともに、リチウムイオン電池等の充電式電池の回収を開始するなど、時勢に合わせた収集体制を構築しました。また、排出物の成分調査を実施し、区民のごみ排出の実態把握を行いました。			令和７年度に実施した区民のごみ排出の成分調査では、可燃ごみに資源化できる紙類、プラスチックなどが多く混入していることなど、引き続き資源とごみの適正な分別について啓発が必要です。		
令和８年度	c	「港区一般廃棄物処理基本計画」を改定し、更なる循環型社会の構築に向けて、3Rの取組とともに、ごみ減量に向けた適正な排出を呼びかけながら、厳しい気象条件や大規模災害時にも持続可能な収集体制を構築します。					

a：計画目標値を達成できる（達成度100%以上） b：計画目標値を相当程度達成できる（達成度70%以上100%未満）

c：計画目標値を達成できない（達成度70%未満）

2 施策評価

評価	C：計画目標を達成できない
施策の達成状況	- 計画当初に比べて、ごみ量は減少しています。 - 計画目標値までのごみ減量は達成は難しく、C評価となりました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	- コロナ禍以降の経済活動の回復や人口増も相まって、ごみの総量は少しずつ増えてきています。 - 区民一人ひとりの分別意識の向上や、適正排出に向けて、引き続き、分かりやすい周知を行っていきます。
MINATOビジョン策定に向けた課題と今後の方向性	MINATOビジョン・タウンフォーラムでの議論を踏まえ、分別の徹底による無駄のない資源化が図られるよう、周知・啓発を行うとともに、資源循環を一層促進する取組を検討します。

A：計画目標を達成できる（成果指標（平均）の達成度100%以上）

B：計画目標を相当程度達成できる（成果指標（平均）の達成度70%以上100%未満）

C：計画目標を達成できない（成果指標（平均）の達成度70%未満）